

わたり土湯ぽかぽかプロジェクト～成果と課題～

1. プロジェクトの目的

渡利など、線量が高い地域に住む人たち、特に子ども・妊婦が、線量の低い土湯温泉に滞在することにより、被ばく量を少しでも低減させることを目的とする。併せて、温泉滞在や外遊びによるリラックス効果も狙う。

2. プロジェクトの背景・経緯→別紙1

3. プロジェクトの概要・特徴

対象：渡利・小倉寺・南向台地域の子ども・妊婦を含む家族・グループ

滞在先：土湯温泉（川上温泉・山根屋旅館）、土湯峠温泉郷（鷺倉温泉、相模屋旅館、野地温泉）

利用者負担：休日 大人・3,000円 中高生・1,500円 小学生以下／妊婦・無料

平日 大人・2,000～3,000円 中高生・1,000～1,500円 小学生以下／妊婦・無料

大人のみグループ・5,000円～6,000円（旅館によって異なる）

旅館側への支払：大人・休日7,000円、平日5,000～6,000円 子ども5,000円

主催者：渡利の子どもを守る会、子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

福島老朽原発を考える会（フクロウの会）、FoE Japan（エフ・オー・イー・ジャパン）

特徴：近距離の保養であること、だれでも気軽に参加できること

民間団体による企画、全国からの寄付で運営

熊本県産・和歌山県産などの有機野菜やお米の差し入れ

4. 利用状況（1/27～3/31）

利用家族数：のべ355家族、のべ人数：1,640人

（内訳）大人：814人 妊婦：24人 中高生：85人 小学生：410人 乳幼児：307人

子ども・妊婦の比率：50.3%

週末利用：233家族（1,154人） 平日利用：122家族（486人）

5. 収入・費用→別紙2

6. 成果

- ・参加者が、短期間とはいえ、低線量の場所でリラックスした時間を過ごせたこと。温泉を楽しんだり、子どもを野外で遊ばせたりできたこと。
- ・参加者同士の交流もそれなりにあったこと。
- ・民間の力だけで短期保養プロジェクトを実施できることを示せたこと。

※参加者アンケート→別紙3

7. 課題

- ・滞在期間が短すぎる
- ・参加者全員に趣旨を十分伝えきれていなかった
- ・各種調整（とくに直前のキャンセル対応）の事務負担が、過大となった
- ・各旅館に参加者が分散して宿泊したため、子ども向けイベントや座談会などが、特定の旅館でしかできなかった